

SDGsの  
17目標



**2030**  
SDGsで変える

# 若者がつないだ 日常と目標

SDGs（持続可能な開発目標）にはターゲットと呼ばれる小目標がありますが、あまり知られていません。このほどターゲットにわかりやすいコピーをつけるプロジェクトが完成。土台になったのは、若者から寄せられた2万3千を超えるアイデアでした。  
（編集委員・北郷美由紀）

## 169項目のターゲット 日本語コピーが完成

SDGsターゲット  
こんなにわかりやすくなった



**1-2** どの、どんな貧困も、  
半分に減らそう

（外務省の仮訳）2030年までに、各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、すべての年齢の男性、女性、子どもの割合を半減させる



**2-1** 誰もが毎日、安全で  
栄養のあるものを食べられる社会に  
2030年までに、飢餓を撲滅し、すべての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする



**5-1** 全世界の、あらゆる形の  
女性差別に終止符を

あらゆる場所におけるすべての女性及び児童に対するあらゆる形態の差別を撤廃する



**8-5** すべての人に、  
働く喜びと正当な対価を

2030年までに、若者や障害者を含むすべての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、ならびに同一労働同一賃金を達成する



**10-5** お金のズルを、  
世界中で厳しく取り締まろう

世界金融市場と金融機関に対する規制とモニタリングを改善し、こうした規制の実施を強化する



**14-1** 海へ流れるゴミを減らし、  
これ以上の海洋汚染を防ごう

2025年までに、海洋堆積物や富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減

SDGsターゲットの日本語コピーの完成発表会。出前授業で出会った青山学院と大和証券グループ、慶応義塾と住友林業、和洋九段女子とマニフレックスの関係者も再会した。3月26日、横浜市内



大阪府立阿倍野高校では昨年度の探究学習でSDGsに取り組んだ新3年生の多くが、自作のコピーを送った。村上典子さんは、誰でも公共スペースを同じように利用できるようにする

「SDGsは17分野の目標を達成する具体的な行動として、目標ごとにターゲットを定めている。チェックリストの役割も果たす重要なものだが、全部で169もあり言い回しも難しいことから、ターゲットに沿った取り組みは広がっていない。そこで慶応大の蟹江憲史教授らの発案で2020年5月に始まったのが、「SDGs169ターゲットアイコン 日本版制作プロジェクト」だった。生徒や学生からターゲット用のコピーを募集。11月末の締め切りまでに2万3382通のアイデアが寄せられた。プロのコピーライターも入った制作委員会が集まったアイデアを整え、完成版が3月にできた。

完成版で井上麻衣さんが注目したのは目標5の4番「家事や

「すべての人に、安心して利用できる緑地や公共スペースを」。これを見た村上さんは「具体的でわかりやすい。こういうコピーがあれば、大事なことを意識しやすくなる」

目標11の7番ターゲットに、「差別のかわりに安心と笑顔あふれるみんなの場所を」というコピーを考えた。空き地が減って残念に思う気持ちや、未来がそうならないほしいとの期待を込めた。完成版のコピーは

育児を労働とみなし、家族で、社会全体で分担しよう。自分の家でも友人宅でも共働き家庭のお弁当の作り手が母親なのが気になっている。日頃のもやもやと世界の目標が結びついた。

## アイデア2万3千超 踏み出す一歩